

インドのトイレビジネスと社会運動の ハイブリッドによる社会開発

-スラブ・インターナショナル(Sulabh International)の事例から-

キーワード: 公衆衛生、社会改革運動、トイレ、Manual Scavenging、尊厳ある仕事

法政大学大学院 公共政策学研究所
修士課程2年 鈴木真理

発表の流れ

- はじめに「Swachh Bharat (Clean India)」キャンペーン
- インドのトイレ事情
- 研究目的
- スラブ・インターナショナル(以下、スラブ)の概要
- 事業目的
- 現地調査の概要と結果
- 考察
- 結び
- 参考文献

はじめに 「Swachh Bharat (Clean India)」キャンペーン

公衆衛生の向上はモディ政権における政策の重点課題

- ・「Toilet first, temple later!」のスローガンを掲げ、公衆衛生の向上を優先課題の1つとして取り組む
- ・2014年11月には、スラブの創設者らと共に、ワーラーナシー※1のガート※2を訪れ、「Ghat Clean-up」キャンペーンを実行。スラブはワーラーナシーの86ヶ所あるガートの内、2ヶ所の清掃業務を受託した

※1 ワーラーナシー: バラナシとも呼ばれ、ヒンズー教の聖地として重要な場所の1つ。

※2 ガート: 川岸に設置された階段のことで洗濯や沐浴場として利用される。

写真出典: 「Sulabh India」, Vol.26, Issue12, December2014



ワーラーナシーのガートにて、
モディ首相とスラブの創設者Dr.Pathak氏

インドのトイレ事情

トイレの種類	割合	人口推定
トイレがない世帯(屋外排泄)	53.1%	6億4300万人
Pit(堅穴式)トイレ	9.4%	1億1400万人
水洗トイレ	36.4%	4億4000万人

出典:トイレの割合「JICA「貧困プロファイル・インド」(2012), 全人口12億1,019万人, Census(2011)

【トイレがないと困ること】

【衛生】非衛生的な環境下により、下痢などの水因性の疾患になりやすい

【教育】屋外排泄はプライバシーがない。特に女子は学校にトイレがない場合は通学が困難

【経済】トイレ不足が原因の病気・死亡などにより、年間500億ドル(約6兆円)以上のコストが発生していると推定される(世界銀行)

研究目的

インドにおけるサステナブルなソーシャルビジネスの展開には、社会改革運動が不可欠であることを、スラブの事例から検証する



デリーにある世界遺産の1つ「ラールキラー」にあるスラブの公共トイレ



スラブ本部にあるスラブ式トイレの模型

スラブの概要

- ・1970年Dr. Bindeshwar Pathakによって設立されたインドのNGO団体
- ・**社会改革 (Social reform)**をミッションとして「トイレ事業」を行う
- ・インドのトイレ事業者としては最古参の団体

【事業目的】

- ① 低コストで衛生的なスラブ式トイレを建設することにより、**公衆衛生の向上**に貢献する
- ② スラブ式トイレを建設することにより、manual scavenging (手で直接排泄物を汲み取ること)から**清掃人カーストを解放**する

スラブの活動は国際的な評価を受けており、UNDPでも紹介されている。2009年には世界の水環境の保全・再生への功績に対して贈られる「Stockholm Water 賞」を受賞した。

事業目的①

スラブ式トイレの特徴



スラブ式トイレ



内壁に穴があいた浸透性があるpit



自然乾燥した排泄物

【仕組み】

2 pit式で片方のpitが排泄物で満たされるとそのpitは閉じ、他方のpitに流す。流す水は1.5L-2L。pitは浸透性があるため、排泄物は自然乾燥され、約2年で石炭のようになる。

【メリット】

- ・下水が整っていない地域でも**衛生的なトイレ**が建設可能
 - ・水洗トイレよりも**安価**（最安で1,100ルピー）で、流すための**水が少なくて済む**
 - ・汲み取り回数が激減し、排泄物の取り扱いが容易（毎日汲み取り→2年に1回の頻度）
- 事業目的②の清掃人カーズのmanual scavengingからの解放にもつながる

事業目的②

manual scavenging からの 清掃人カーストの解放



Manual scavenging

・清掃人カーストはpittトイレの汲み取りの仕事に従事

手で直接排泄物をくみ取る(manual scavenging)事は、非衛生的でヒトとしての尊厳の観点から法律で禁止されている。しかし毎日汲み取りが必要な旧式のpittトイレが存在する限り、「清掃人カースト」が汲み取りをせざるを得ないのが現実である。

汲み取り回数が激減し、排泄物の取り扱いが容易になればmanual scavengingからの清掃人カーストの解放につながる。→スラブ式トイレの有意性

「清掃人カースト」とは

・人口約70万人(2002年頃)。不可触民である指定カーストの中でも最下層に位置し、他のカーストよりも貧困率が高く、識字率は低い

・排泄物処理に従事しているのは**女性が多い**

・カースト制度による差別は、インド憲法第17条によって禁止されているが、「不浄」な物を扱う清掃人は特に差別を受けやすい。



排泄物が入った入れ物を頭にのせて運ぶ

不浄とは

ヒンズー教の概念のひとつ。衛生面での綺麗・汚い概念とは異なる

【例えば】

- 自分と異なるカーストが使うトイレは使わない
- 食物や水の受け渡しや食器の共有は「汚れが移る」
- 左手は不浄（握手や食事は右手を使う）
- 排泄物や死体を扱う者は不浄
- 血は不浄
- 不可触民はヒンドゥー教でありながらヒンドゥー教寺院に参詣することを禁じられる
- 特に農村部では不浄の概念が強い



スラブ本部の公共トイレにある使用済み生理ナプキンの焼却炉。不浄は直ちに焼却

事業目的②

解放された人々の生活の向上

アルワール、トンク、アラール、ガーズィヤーバードに職業訓練所を設置

- ・訓練生の多くは女性であり、年齢は10代から60代
- ・縫製・刺繍を習得し製作した衣類は市場で売り、彼らの**収入**となる
- ・ヒンズー語の読み書きや、買い物の際に必要な算数、簡単な英語表記を読むための英語学習など、解放後の生活に必要な**知識**も学習



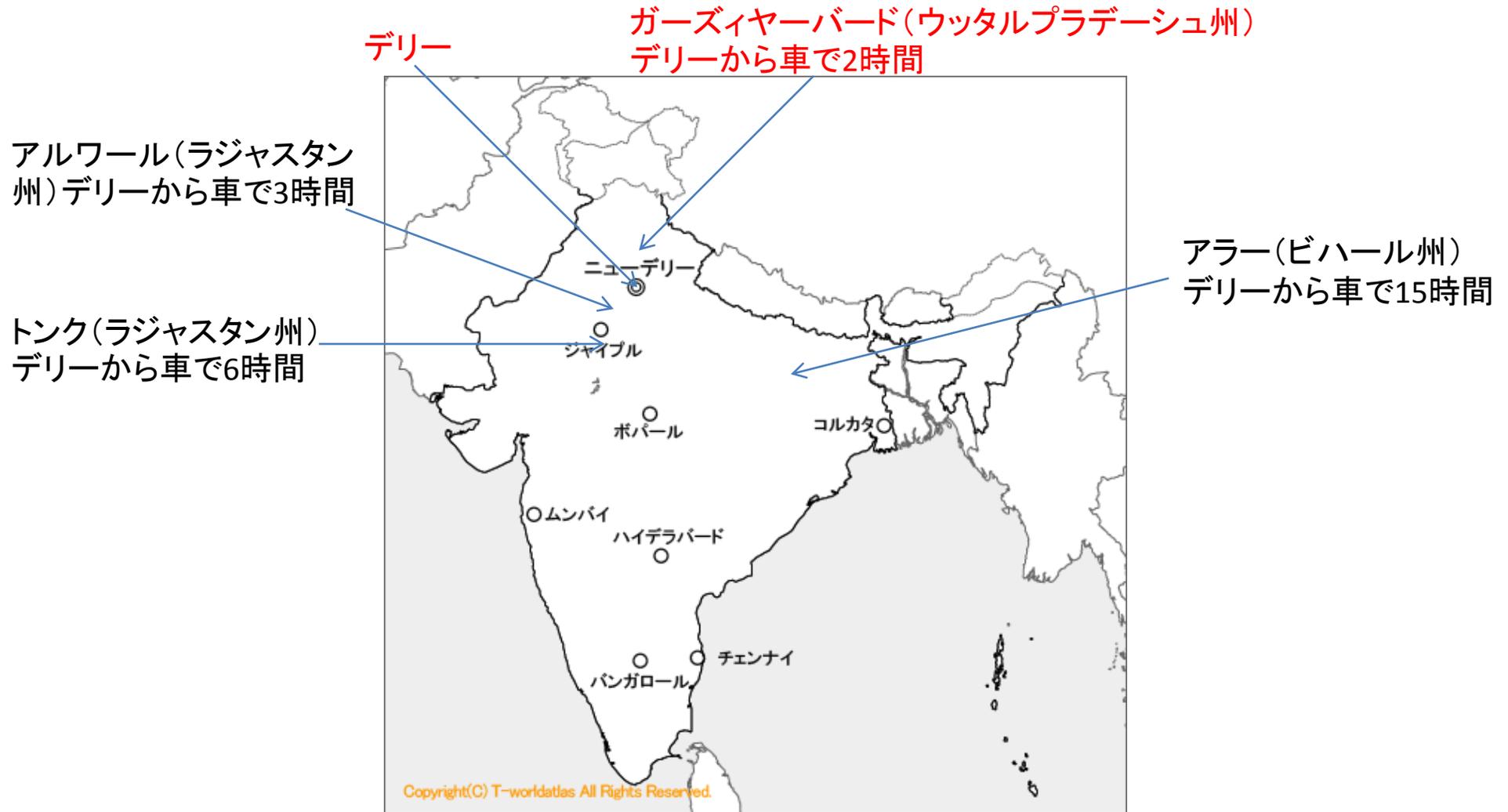
最前列中央は最年少の18歳。右は最年長の67歳
(ガーズィヤーバード)



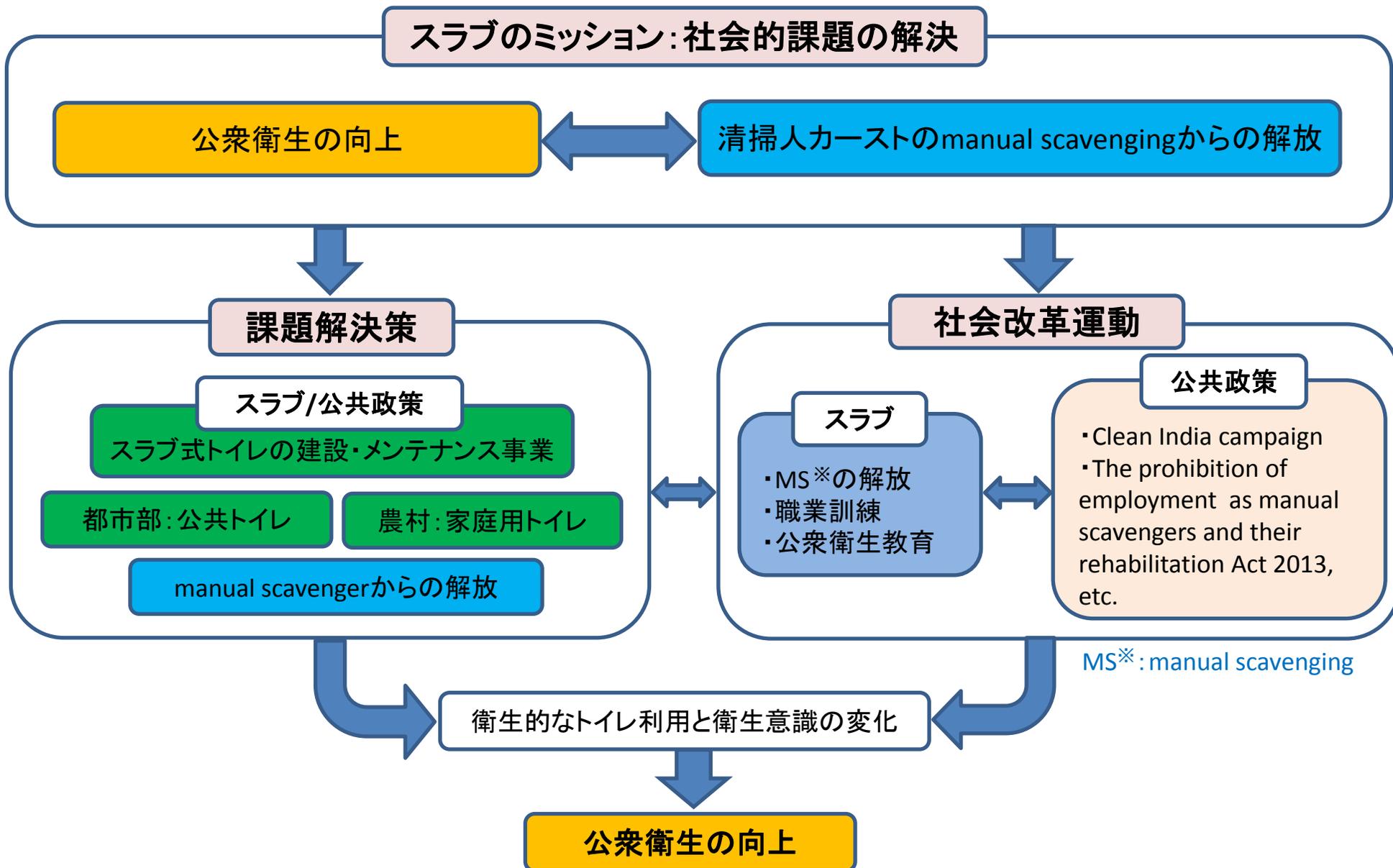
解放された人が着る水色のサリーは「平和」を意味する
(ガーズィヤーバード)

職業訓練所展開地域

(赤字は本調査訪問先)



ここまでのまとめ



現地調査の概要

【第1回目調査:2015年3月11日】

- ・2015年3月に、スラブ本部(デリー)において、**設立の経緯やトイレ事業全般**についてのヒヤリングを実施。
- ・本部の職業訓練生や、村の職業訓練所で縫製などの仕事に就いている旧清掃人の方々に対してインタビューを実施。
(面会者:スラブ本部3名、本部の職業訓練生4名、旧manual scavenger 約10名)

【第2回目調査:2015年4月27・30日、5月5日】

- ・**トイレ建設事業及び社会改革運動の実績**について詳細なヒヤリングを実施。
- ・ガーズィヤーバードにて、職業訓練生や他のカーストの人々に対してインタビューを行い、**解放後の意識・行動変化**及びスラブ式トイレの設置状況について調査。
(面会者:スラブ本部2名、旧manual scavenger 15名、訓練所教師1名、村長及びトイレ清掃の依頼主であったアッパーカースト8名)

調査結果【事業目的①公衆衛生の向上、②清掃人カーストの解放】

事業の実績

	2006	2014
活動している州/連邦直轄領の数※	26/3	26/4
スラブが活動している町の数	1,080	1,628
1日あたりのスラブトイレを使っている人数	1,000万人以上	1,050万人
家庭用トイレ建設数	140万	NA
公共トイレ建設・メンテナンス数(公共事業)	6,000	10,861
ヒトの排泄物によるバイオガスプラント数	143	197
解放された清掃人の数	60,000	125,000
Manual scavengerが解放された町の数	240	640
スラブ式トイレを導入している国	13 ブルキナファソ、ガーナ、ケニヤ、マリ、セネガル、タンザニア、ザンビア、コートジボワール、ルワンダ、エチオピア、モザンビーク、ウガンダ、カメルーン	12 中国、バングラディッシュ、ブータン、アフガニスタン、ブルキナファソ、ガーナ、ケニヤ、マリ、ナイジェリア、セネガル、タンザニア、ザンビア

※インドは29の州と7つの連邦直轄領からなる

出典：2006年データ：UNDP(2008), スラブのパンフレット(2014年3月入手)、2014年データ：鈴木真理2015年第2回目調査

トイレ事業成功の理由

1. 公共トイレ事業

- ①都市部ではカースト制度や不浄の概念が薄れ、同じトイレを使用することに違和感を持たない人が多い為、公共トイレの建設が可能
- ②公共トイレのメンテナンスが最重要との方針で事業を展開。利用者から利用料2ルピー(約4円)を徴収し、メンテナンス費用に充てる

2. 家庭用トイレ事業

- ①農村部では、未だカースト制度や不浄の概念が根強く残り、異なるカーストが同じトイレを利用する事は現実的でない(国民の7割が農村に住む)
- ②スラブ式トイレは下水道の整備が遅れている農村部においても衛生的で安価な家庭用トイレを提供することが可能

ガーズィヤーバードの職業訓練所

- ① 18歳～67歳の21名 **全員就学歴なし** (識字率(2011)※74.04%, 男82.14%, 女65.46%)
※出典: JICA(2012)「貧困プロフィール・インド」
- ② 解放後一番変化したこと: **「自分たちは不浄ではなくなった」**



かつての雇用主と共に記念撮影



不浄とされる左手も使って挨拶(デリー)

- ・ 清掃人の時は地獄だった。今は天国にいるようだ。「不浄な物」を扱わなくなったため、他カーストから認められるようになり、**ハグ**をしてくれる。**一緒に食事**もする。
- ・ 清掃人の時は20世帯/月を担当し合計**1,000ルピー(約2,000円)**と**ハラメント**を受けていたが、解放後は縫製作業などで**2,500ルピー(約5,000円)/月**と**尊厳**を持った。収入が増えたので**野菜が買える**ようになった。店で野菜が**直接手に取れる**ようになった。
- ・ 政府関係者や外国人と会う機会を得て同等に扱われる事で**自分に自信**が持てるように。

調査結果【事業目的②清掃人カーストの解放】

職業訓練生の数

職業訓練所	開始年	合計	女性	男性
デリー(スラブ本部)注:デリーの訓練生は清掃人カーストの子弟が6割であり、彼らは清掃に従事したことはない	1992	5,254 (現在200)	約9割	約1割
アルワール(ラジャスタン州)	2006	115	115	0
トンク(ラジャスタン州)	2008	280	245	35
アラー(ビハール州)	2011	49	27	22
ガーズィヤーバード(ウッタールプラデーシュ州)	2013	21	21	0
合計(カッコ内はデリーを除いた数)		5,719(465)	約 5,000(408)	約600(57)



ガーズィヤーバードの職業訓練所



デリー(スラブ本部)の職業訓練所

考察

スラブのミッションは、公衆衛生を中心とした社会課題を解決すること

スラブはトイレ事業の最古参としてインドの公衆衛生への意識が低い時代からメンテナンスを最重要として事業を行ってきており、これが競合に対しての優位性となり、トイレ事業をサステナブルにしていると考える。



ガーズィヤーバード職業訓練所のトイレ



村長の家のトイレ(ガーズィヤーバード)

考察

「不浄」に対する社会改革運動



旧清掃人の手から食事をとる

★スラブ式トイレを建設することにより、違法な清掃から解放された清掃人は12万人にのぼる。「不浄なもの」を直接扱わなくなったことの意義は大きい

★解放された当人がメディアや訪問者を通じて、直接メッセージを伝えることにより、公衆衛生の向上と清掃人カーストへの意識・行動変化に影響を与える。スラブの活動が解放された清掃人カースト12万人の転職に結びついてはいないが、彼らがヒトとしての尊厳を得たことの意義は大きい

「結論」

スラブが行っている社会改革運動は、公衆衛生や清掃人カーストに対する社会的課題の解決に貢献しており、課題解決策のトイレ建設事業に対して必要不可欠な運動である

結び

「Swachh Bharat (Clean India)」のキャンペーンは、スラブのトイレ事業にとって追い風である。これまでの首相も公衆衛生の問題を軽んじてはいなかったが、モディ首相は公に大々的に政策を提示した初めての首相である。

インド国民の約8割がヒンズー教徒とされる中、ヒンズー教の聖地であるワラーナシーでのガートClean-upキャンペーンはインド全土からの関心を集め、公衆衛生への更なる意識変革に大きな役割を果たしているであろう。モディ首相による公衆衛生改善政策の効果が今後も期待される。



第1回目調査時、旧清掃人の方々と共に(中央の赤服は創設者のDr. Pathak氏)

参考文献

- JICA(2012)「貧困プロフィール・インド」
- Sulabh International Social Organization,
< <http://www.sulabhinternational.org/> > 2015年5月7日アクセス.
- The Ministry of Housing and Urban Poverty Alleviation (MHUPA), (1993), 「The Employment of Manual Scavengers and Construction of Dry Latrines Act 1993」.
- UNDP(2008), Growing Inclusive Markets, Case Study「Sulabh International: A movement to Liberate Scavengers by Implementing a Low-Cost, Safe Sanitation System」.
- 篠田隆(1995)『インドの清掃人カースト研究』春秋社.